

和名倉百年の森

wanagura hyakunen no mori

NPO 法人百年の森づくりの会

2011
4.1

21号

巻頭 「アブとクモ」……1 / エコサロン冬の講座講演会……2 / 和名倉山森づくり報告……3 /
冷蔵苗製作報告……4 / さいたま環境賞受賞……4 / 和名倉山の鹿の食害……5 /
セブンイレブン助成金……6 / 百年の森ふれあいコンサート……6 / 2011年活動スケジュール……7

アブとクモ

理事長 内藤 勝久

「バサ！ バサ！」という音で眼が覚めた。シュラフから顔を出すと、もうすっかり朝日が昇って仁田小屋の窓から燦燦と光がさしこんでいる。窓の内側の小さな棚に置かれた筆立てを指してカラスが襲ってきたようだ。筆立ては千代紙で装飾されているので、美味しい獲物に見えたのかもしれない。襲撃は2回で終わった。

8月23日、私は吉田常務理事と会員の星野さんと和名倉山の食害調査に出かけた。13時間の強行登山。前日には長瀨の宝登山での下草刈り。連日の重労働は古希の身にはこたえた。カラスの襲撃で目は覚ましたものの、意識は極度の疲労で朦朧としている。朦朧とした意識の中で、小刻みにうごく小さな生き物が目にとまった。眼を凝らすとそれはアブであった。小屋の片隅に張られたクモの糸に引っかけ必至にもがいているのだ。1本の糸の先に久しぶりにかかった獲物を絡めとろうとクモが注意深く機をうかがう。死神から逃れんとして羽を震わせるアブとの小さな死闘が続く。疲れ

て羽を休めると、クモは糸を揺らすことな

くアブに近づく。その気配にまたアブは渾身の力をこめて羽を震わす。アブは疲れるがクモは体力を消耗しない。そのような応酬を何度も繰り返すうちアブはすっかり弱ってしまった。私はクモの勝利を信じた。そしてアブがクモの糸に絡めとられ餌食になる瞬間を見たいと思った。かれこれ30分も経ったろうか。ぐった

りしたアブをみてクモはすると糸を下っていった。突然狂ったようにアブが暴れ始めた。まさに死力を奮っているかのような。クモが長い手をのばし、とどめの糸を吐き出そうとした瞬間、どうあがいても外れなかった糸からアブが飛び立った。九死に一生を得て歓喜に満ちた羽音をたてて飛びまわるアブ、大魚を逃がしてすくすくひきあげるクモ。小屋の片隅にくり広げられた小さな死闘を観戦しているうちに疲れもどこかへ吹っ飛んでしまった。このような生死をかけた戦いが和名倉山のいたるところで展開されていくに違いない。

11月20日仁田小屋の小屋仕舞いにい

もの仲間と出かけた。沢の水を引き小屋を一回りして南側の回廊を歩いているとなんと最下段の丸太に引っかけ傷があるではないか。8月のカラスのことが記憶に残っていたので、とっさに動物の仕業だと思った。まもなくそれは熊だと判明した。最下段の丸太が少し朽ちてきてあ

たかも熊の好物の蟻が巣を食っているように見えたのだらう。回廊の下は土砂崩れ防止のためフォレストベンチにし、そこに様々な苗木を植えたのだが鹿に穂を摘まれ跡形もない。かなり前に聞いた雲取小屋の主の話ではヤナギランのお花畑が鹿にみんな食われてしまったそうだ。

いまこそ我々は鹿の食害防止に積極的

に立ち上がらねばならない。

(注) カラスの話には後日談がある。11

月の小屋仕舞いするときこの話をしたら、中川会員からそれはカラスではなく鷹だろう、カラスは里の鳥なのでここまで飛んではこないというのだ。鷹なら美しい千代紙の筆立てを襲撃してもおかしくないと合点した。

平成22年エコサロンの講座講演会
平成22年12月11日(土) 埼玉大学大宮ソニックスティカレッジ

『直根の力』

信州大学農学部特任教授 宮崎 敏 孝 先生

私は大阪に生まれ、信州大学農学部林学科に学び、現在は同大森林工学科で砂防学の講義をしています。

2002年から6年あまり中国で確実に生長する森林を作ることを進めてきました。それを通して、日本の砂防学の現状の危うさを知り、検証・点検を行い、提言もしてきました。

中国山西省黄土高原では保育ブロックで育てたものが人の背丈くらいになりました。これでも京都議定書の定義では森林になります。この年間降雨量は300〜350mmです。日本では最も少ない地域で800mmですから、森林形成には恵まれています。私の考えでは、250mmくらいの雨量がないと森林づくりはできない。それ以下の地域では草本となり、それを家畜が食べて育つので、人間が住めるようになる。人によっては砂漠にも森林はできると主張されるが、私は難しいと思っています。少雨地域での森林形成の鍵は地中にあります。これについてこれから徐々に述べていきます。ここで黄砂についてですが、人間に悪影響を与えるばかりではありません。酸性雨の影響がヨーロッパに比べて日本では少ない。神奈川、群馬、長野の一部で

影響が観測されているだけです。これは落下した黄砂が土壌中でアルカリとなり、酸性雨を中和しているからです。また黄砂は海にも落下し、プランクトンの栄養となって魚類を育てます。

華南省は雨量500〜650mmです。ここに植えたコノテガシワ（ヒノキ系で良材となる）の大半が枯れてしまったので、なんとかできないかとの相談でした。斜面を階段状にして苗を植えたのですが、自然の遷移を無視していきなり針葉樹を植えたのが問題だったと思われまふ。そこで保育ブロック工法を採用しました。ブロックは直径10cm、高さも10cmほどの円筒形で、中には貫通穴があります。ここに腐葉土を含む土を入れて、種を蒔きます。より確実にするために今回は発芽したものを持ち込み、全体を水に浸漬してブロックに水を含ませ、土中に置きます。石を近くに置いて付近の水の蒸散も防ぎます。コノテガシワと一緒にはヤマモモも植えました。活着率は90%を超えました。日本では雑草や他の草木が先に伸びて本来の木が下になることが多いのですが、少雨地域では他のものの生長も悪いので、

コノテガシワのような陽光が少なくても生長する木が向いていたのでしよう。

地中であって地上部を支えるものが根。これが健全に生長することによって木（地上部）が生長します。地上の気候変動も根には影響を与えません。地下数十センチ以下の水は蒸発しません。根は水分のある所に伸び、固いものがあれば横に伸びてまた重力に応じて真っ直ぐ伸びていきます。岩石の割れ目に伸びるものもあります。根と地上部のバランスは保たれています。保育ブロックで育てた木の根元を掘って根の状態を見ると1m以上になっています。ポット苗を移植したものは40cmくらいまでしか伸びません。苗畑では根切り・床代えをしますが、真っ直ぐ伸びる根は一度切られると再生が困難です。真っ直ぐに伸びた根は木の寿命を長くし、斜面の崩壊を防ぎます。桜も種から生長したものは長寿命で、公園に植えられたものは短寿命です。大規模な斜面崩壊があった所を観察すると、植えられたカラマツの根は40数年生でも80cmくらいです。これでは雨に土壌を流されるとすぐに崩れてしまいます。一

方、高所のアカマツは種から育ったものなので2m以上に伸びてしつかりと地を支えています。

日本でも斜面施工は必要ない。保育ブロックに種を蒔いて置いておけば木は生長します。低雨地域での森づくりで学んだものは「パラダイムの転換の発想」であり、これをもとに林業行政への提言を行なっています。

聴講者の質問に答えて

・ 苗の根切りは、半分切ったらダメ、少しなら再生可能です。
・ ポット苗の根はぐるぐる巻きになる。これはうまく生長しない。最初から自然状態で育てるのがよい。



冷蔵苗製作報告

2010年12月5日(日曜日) 長瀬苗畑午前9時〜午後3時

集合はAM9時にもかかわらず準備のため苗畑に行ったら既に石坂さん、星野会員は各々作業を進めておりました。

冷蔵苗の製作も3回目になるわけで会員もその作り方は理解している人が多くなり今回は、作業を楽しむ事に重点を置くように企画しました。

イ) 体に負担の大きい苗の掘起し作業はミニユンボを使って省力化した。

ロ) 本数は和名倉の資材の運搬があいもかわらずシヨイコに頼

るため4回の植樹をやるとして1回50本を10人でかつぎあげる。4×50=200本の冷蔵苗を作る。

ハ) 畑に植えて丸一年なので整根・整枝はまだ不要と判断して計画しました。13名の参加を得て全員の作業は9時開始、掘起しはミニユンボで正味20分位で完了。

苗は起したら予想外に根を張っておりました。

大型のビニール袋(巾1m×高さ2.4m)に入れると破れ



る恐れがあるのでやはり整根・整枝作業を加えパチパチと手際よくはさみの音も軽やかに2時間ほどで作業終了。整理した苗を5本で1束にしてブルーシート(1.2m×1.2m)で粗包みしその上にビニール袋をかぶせて4、5カ処しばりました。

包装した苗は、トラック2台に積込んで冷蔵庫に向い昼迄には、保冷庫に立ち込まれて、越冬の準備ができました。シートにくるまれた苗は残された葉から若干の水分を蒸散させますが水分がビニールに結露して下にたまり毛根に吸われて葉から蒸散するという冬眠しながらのサイクルを行います。その生物の機能を阻害しないよう大事に立ち込みました。

全員心地よい半日の作業を終了いたしました。

さいたま環境賞を受賞

特定非営利活動法人 百年の森づくりの会は、これまでの活動が環境保全に関する取組として高く評価され、「第12回さいたま環境賞(県民部門)」の受賞者として決定されました。

さいたま環境賞は、環境保全に関する意識の醸成及び行動の促進を図るため、個人、県民団体及び事業者における他の模範となる優れた取組を表彰するものです。

そして3月22日に知事公館で、内藤理事長が上田清司知事から環境賞を受賞する予定でしたが、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により中止になり、後日、表彰状が授与されることになりました。

和名倉山の鹿の食害

理事長 内藤 勝久

私たちは昨年の8月23日に仁田小屋から仁田小屋尾根をへて和名倉山頂までの食害調査を行い、同11月20日には応急措置として和名倉山手前の松葉沢の頭(まつばざわのかしら)周辺でシラビソの立ち木50本に防護ネットを張った。同数のシラビソの古木が立ち枯れている姿に大きな衝撃をうけた。このエリアのシラビソ100本はすべて鹿に皮をはがれ50%が枯死している。針葉樹の中ではシラビソとカラマツが狙われているが、恐らく奥秩父のすべてのシラビソが鹿による食害を受けていると考えられる。



50年ほど前に登った和名倉山の山頂は、2036mの埼玉県最高の独立峰なのに、周囲はシラビソ林で視界ゼロ。昼なお暗き小さな空き地に一等三角点が社のように鎮座していた。それが50年後には光が届くほどに明るくなっていて、頂上の三角点を見落としてしまうほどだった。頂上から仁田小屋へ少し下ったところが馬鹿に明るいので立ち寄ってみると、おびただしい数のシラビソが、皮をはがされて白木の丸太となり累々と重なっている。正に死屍累々といった情景である。たぶん台風による倒木が原因と思ったが、なぜ白木なのかはわからなかった。

熊、猪、猿の獣害も増加しているが、樹木を食料とするのは鹿だけだ。天敵の狼は絶滅し、ハンターは減少、さらに地球温暖化で凍死する心配もなく、鹿はわが世の春を謳歌しているかに見える。そのまま増えれば食料は不足するので、いままで口にできなかった食材を求めようになる。最近では苦手のアセビさえ食べているようだ。鹿は木を植えない。食べるだけだ。出荷寸前の杉や檜も皮をはがされたらお終いだ。いずれは奥秩父の山々から森林がなくなってしまうかもしれない。

このような大問題は本来国が責任を持つべきものであるが、政治家も含めきわめて消極的である。されば我々が最初の一步を踏み出し大きな世論を醸成せねばと思う。

セブニーイレブン基金財団の助成を受けて

副理事長 小林 公彦

百年の森づくりの会は、NPO法人を設立し、セブニーイレブン基金財団からNPO法人格取得助成として毎年50万円、3年間で合計150万円の助成金をいただきました。

初年度は、長瀬宝登山の百年の森づくりに、ヤマザクラ、ヤマツツジなど5種類の苗木250本を購入させていただきました、植栽することができました。現在下草刈りを毎年実施しており、苗木は順調に育っています。

2年目は、ドングリから苗づくりをして、地元の方に育てた苗木を戻すため、長瀬苗畑作業を実施しています。苗畑の水遣りポンプなどの施設の設置およびよしず小屋の改修・増設などに使わせていただきました。我々の作業もし易くなり、苗木の育成にも大いに役立っています。

また、大型冷凍庫を購入し、ブナの冷凍保存苗づくりが出来るようになり、和名倉山仁田小屋尾根の植林ワークでは、30本くらいしか植栽できなかったが、大幅に搬送できるようになり、200本植栽することが出来るようになりました。

3年目の今年は、シカの被害を

防止する、防護ネット、樹木防護ネットおよび根切り機、穴掘りドリルを購入させていただきました。最近では、植林も大事ですが、現存する森の樹木の食害対策が課題になっていきます。我々の活動は百年の森づくりを進めることから、苗木の植栽に併せて食害問題にも今後取り組んでいかななくてはならないと思います。

以上、セブニーイレブン記念財団から3年間の助成金により、NPO法人百年の森づくりの会は事業活動の充実を図ることができ、おかげさまで多くの成果を得ることができました。また、唐鍬、下草刈り機、根切り機、穴掘りドリルなどの設備機器は、今後の事業活動に大切に使用していきたいと思っています。

感謝、感謝申し上げます。



百年の森ふれあいコンサート

ここ数年、秩父の地に植林の輪が広がりを見せ、山に新しい木が育ち始めています。百年の森の活動も一翼を担ってきた気がします。

若い演奏家と秩父の地域で活躍している仲間たちで、音楽会の機会の少ない皆野、長瀬地域に何か発信できればと思つて始まった「ふれあいコンサート」も9回を数えることになりました。

9月19日(日)に行われたコンサートは、朝早くピアノの調律から始まります。スタッフが会場の準備をし、リハーサルが終わると1時になっていました。

今年も百年の森も10周年を迎えた記念の年でしたので、伊藤弥八さんの記録映画の上映をしました。目で見るとは説得力があります。自分たちも良く頑張ってきたなど感慨深いものでした。

コンサートは、これまた20周年を迎えたコール四季のみなさんと秩父高等学校音楽部の合唱で始まりました。演奏は、ピアノ、ヴァ

イオリン2名、ヴィオラ、チェロの五重奏をゆつくりと楽しませてもらいました。

最後に、全員で歌う「ふるさと」は、情景とともにずっと残しておきたい、残しておかなければいけないという思いが心を揺さぶります。23年は9月4日(日)の予定です。皆野文化会館に是非お出かけください。





2011年 活動スケジュール

活動への参加をご希望の方は、事前に事務局まで御連絡ください。

	総会・理事会	フィールド活動		苗づくり	エコサロン他
		和名倉	長瀬宝登山/大陽寺		
4月	■会報21号発行 ○4/18(月)常務理事会	□仁田小屋小屋開き 日時：4/2(土)～3(日) 集合：8:30/西武秩父駅		◇長瀬苗畑作業 日時：4/17(日) 集合：9:00/野上駅	◆第13回春の公開講座 荒川 河川敷の自然林を歩こう 日時：4/23(土) 集合：9:30/埼玉大学正門前 集合：9:30/秋ヶ瀬公園・北駐車場
5月	●5/16(月)理事会 場所：教育会館 ■第4回通常総会・記念講演会 日時：5/29(日)14:00～ 場所：別所沼会館 14:00～14:50 第4回通常総会 15:00～16:30 記念講演会 16:45～18:30 懇親会	◇第28回和名倉山ワーク 日時：5/21(土)～22(日) 集合：8:30/西武秩父駅		◇長瀬苗畑作業 日時：5/15(日) 集合：9:00/野上駅	
6月	○6/19(日)常務理事会		□大陽寺ツル伐り・ ネット巻き作業 日時：6/25(土)～26日(日) 集合：8:30/西武秩父駅	◇長瀬苗畑作業 日時：6/12(日) 集合：9:00/野上駅 ◇長瀬苗畑作業 日時：6/19(日) 集合：8:00/西武秩父駅	
7月				◇長瀬苗畑作業 日時：7/10(日) 集合：9:00/野上駅	
8月	○8/21(日)常務理事会 場所：長瀬		◇宝登山下草刈り作業 日時：8/21(日) 集合：9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場		
9月					■百年の森ふれあい コンサート 日時：9/4(日)14:00～ 場所：皆野文化会館
10月	■会報22号発行 ○10/17(月)常務理事会			◇長瀬苗畑作業 ドングリ拾い 日時：10/16(日) 集合：9:00/西武秩父駅	
11月	●11/14(月)理事会 場所：教育会館	◇第29回和名倉山ワーク 日時：11/5(土)～6(日) 集合：8:30/西武秩父駅 □仁田小屋小屋じまい 日時：11/26(土)～27(日) 集合：8:30/西武秩父駅			
12月	○12/19(月)常務理事会			◇長瀬苗畑作業 プナ苗掘取り、冷温保存 日時：12/4(日) 集合：9:00/野上駅	◆第14回冬の公開講座 日時：12/10(土) 会場：大宮ソニックシティ



「中津川シャクナゲ」

■新会員（会員番号 氏名 住所）2010.4 ～ 2011.3

938 柿沢京子 横浜市 / 939 塩野輝之 三芳町 / 940 島林正彦 鳩ヶ谷市 / 941 大熊光治 加須市 / 942 春山秀仁 戸田市 /
943 柳沢ひとみ 東京都

和名倉百年の森 第21号 2011年4月1日発行

発行者：NPO法人百年の森づくりの会 内藤勝久

NPO法人百年の森づくりの会 事務局

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂三丁目12-9 農林会館地下1階 TEL/FAX：048-831-1469

<http://www.100nen-forest.org> e-mail：info@100nen-forest.org